

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 235

日本野鳥の会 埼玉県支部

part 3 オオハムとシロエリオオハムの識別

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

筆者はこれまで、支部報『しらこぼと』の155号（1997年3月号）および209号（2001年9月号）の2回にわたり、「オオハムとシロエリオオハムの識別」について文献から引用し紹介してきた。

識別のポイントをあらためて述べれば、すなわち次のとおりである。

①喉の線（chinstrap）の有無

シロエリオオハム（以下、シロエリと略記する）冬羽では、喉のところに黒褐色の線が出るがオオハムには出ない。

②脇腹後部の白斑の有無

この白斑が確認できれば、夏羽・冬羽を問わずオオハムと考えてよい。

③下尾筒基部の線（vent strap）の有無

シロエリには下尾筒基部に黒褐色の線があるが、オオハムにはない。このことに関しては、『Birder』1997年2月号掲載の「アビ類観察の楽しみ」（木村裕一氏）に詳しい。

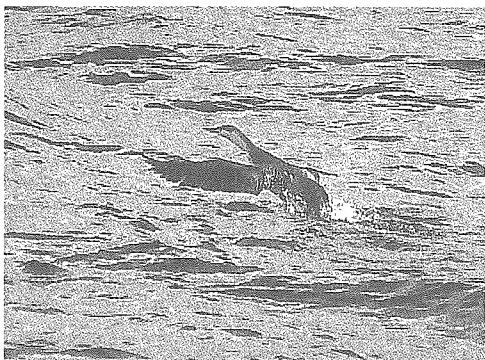
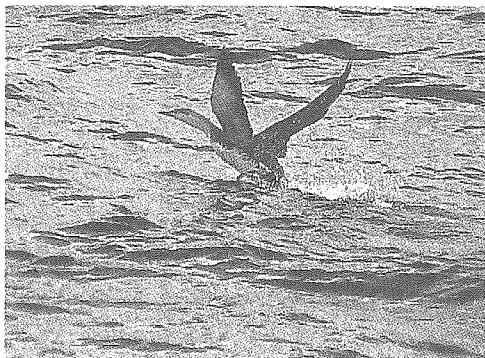
下尾筒となると通常は見えない部分であるが、腹面を見せて羽づくろいをしているときとか、頭上を低く飛んだときなどには見ることができるともかもしれない。

さて、3回目となる今回は、その後、新たに文献から得られた知見と、実際の観察体験とを照合しながら、アビ類全体を見渡してやることにする。

◇再び、ある日のこと

前回、筆者はアビ類の船上からの観察として、近くに船がさしかかっても飛び立って逃げるとは限らず、翼をばたつかせ、足で海面を蹴り、「泳いで逃げる」個体もあると述べた。

ところがである。ある日のこと、『Birder』2002年1月号の「シロエリオオハムの換羽～いちどに抜けて飛べなくなる～」



飛び立せずに海面を逃げるアビ

(平岡考氏)を読んで、「なるほど!」と気がついた。

平岡氏の論考によれば、オオハムとシロエリは春季に完全換羽し、初列風切羽もいちどにごっそり抜けて、一時的に飛べなくなる、というのだ。とすれば、船が近付いても飛び立つことなく、「足踏み式ボート」を漕ぐように海面上を逃げて行く様子についても合点が行く。

筆者が船上からアビ類を観察するのは、このところ1月が多いが、個体差があっても1月には換羽が進行している、ということだろう。

筆者は本年1月にも大洗-苫小牧航路を往復して、アビ・オオハム・ハシジロアビを観察したが、飛び立って逃げる個体と、そうでない個体とが確かにいる。換羽の進行の個体差がどの程度のものかわからないが、ひとつ疑問が解けたような気がしている。

◇アビ類の識別

アビ目アビ科に属する野鳥は5種類ある。

アビ・オオハム・シロエリオオハム・ハシグロアビ・ハシジロアビであるが、ハシグロアビの未公認(?)記録を含め、全種類が日本近海で観察されている。

オオハムとシロエリの識別については前述した。

アビは最も小さく、嘴がやや上に反っているように見える。冬羽では、*Gavia stellata* という学名のとおり、体の上面に小白斑が星のように散在する。

ハシジロアビは最も大きく、嘴は黄白色で太い。アビ類で嘴が白っぽいのは本種だけである。頭もごつい印象を受ける。

ハシグロアビは、筆者は海外でしか観察したことはないが、ハシジロアビの嘴を黒っぽくしたような感じの鳥であった。

アビ類が飛んでいる姿を識別するのは難しいが、飛行姿勢が似ている大型カイツブリ類

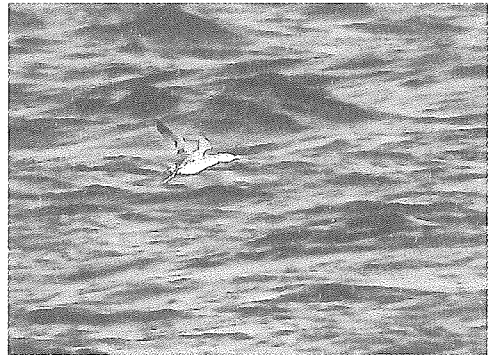
は翼上面の前縁が白いので、アビ類との識別は容易である。

◇おわりに

もう10数年も経つだろうか。岸边から海上へ降りて泳ぎ出す冬羽のアビ類を見たことがある。そのときはオオハムだと思ったのだが、後頭部に丸い白斑が二つ、水平に並んでいた。この後頭部の白斑がわからない。このことについて文献的な裏付けなり、観察記録などがあればご教示願いたい。

オオハムとシロエリの識別について、思いがけず3回にもわたって述べてきたが、相手は海上に点在する鳥たちである。いつどこへ行けば見られる、というものでもないので、限られたチャンスを生かして観察を積み重ねて行きたいと思う。

(写真:海老原美夫 2003年1月 三陸沖)



海面から飛び立つハシジロアビ

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●クロツラヘラサギ

分類 コウノトリ目トキ科ヘラサギ属

英名 Black-faced Spoonbill

学名 *Platalea minor*

2003年8月20日(水)川越市南古谷の休耕田で藤澤洋子会員(志木市)が発見。「池の中でくちばしを左右に振りながら一生懸命採餌していました。農家の方の話では、前日から入っていたようです。マイ・フィールドで、しかも至近距離で見られて、本当にビックリと感動の1日でした」とのこと。

知らせを受けて駆けつけた田中幹男氏(朝霞市)がその日のうちに撮影(右)。その後伊佐沼のほうに移り、多くの人に観察・撮影されました。

県内の過去の記録は次の通り。

1, 1987年12月20日~1988年3月15日、本庄市坂東大橋下流で若鳥1羽滞在。



2, 1988年4月10日、渡良瀬遊水池での支部探鳥会中、若鳥1羽観察。

3, 1992年12月27日~1993年1月5日、戸田市道満荒川調節池(工事中)に若鳥1羽滞在。

今回は4例目になりますが、過去の3例はいずれも冬かその延長の時期で、若鳥でした。夏に発見されたのは初めてです。

関東ブロック協議会の報告

2003年9月20日(土)と21日(日)の2日間、茨城県水海道市あすなろの里で、第27回関東ブロック協議会が開催され、当支部からは藤掛保司支部長、海老原美夫副支部長、橋口長和普及部長の3名が出席しました。

集まったのは、今回の幹事支部である茨城支部をはじめとする関東ブロック9支部から



日本野鳥の会埼玉県支部 総務部

24名と本部から佐藤仁志常務理事・小林豊会員室長の2名、合計26名でした。

佐藤常務理事が本部の現況について報告、海老原も本部監事として実施した臨時業務監査について説明しました。

協議会運営要領と細則の改訂について話し合った後、東京支部を除くブロックとして推薦する理事1名、評議員2名を選ぶ話し合いに移り、従来の持ち回り方式の廃止と、評議員は北関東・南関東(各4支部ずつ)の2区域から1名ずつ選ぶことを決め、理事候補として河地辰彦氏(栃木県支部)、評議員候補として池野進氏(茨城支部)と橋口長和(埼玉県支部)を選びました。

一泊後、2日目は渡良瀬遊水池のラムサール条約登録湿地指定に向けての活動などについて話し合いました。

バードソン 93 募金の使途変更について

日本野鳥の会埼玉県支部 役員会

●バードソンの実施とその後
鹿児島市出水のツルの越冬地を保全するために農地買取りを目的として(財)日本野鳥の会によって 1993 年に実施されたバードソンでは当支部も協力、全国で 21,151,886 円の募金が集まりましたが、使われなまま利息が加わり現在では 24,604,018 円になっています。

その当時の状況では買取りがまったくできないわけではないと判断してバードソンを実施したのですが、現実に着手してみると農地法の制約が厳しく、行政との調整が十分ではなかったことなどの事情から、買取りできないままに年月が過ぎてしまいました。

打開策を検討しているうちに、ツル保護の状況が変化しました。

1993 年当時、行政によるツル越冬地の借上げについて、地権者との間で借上げ料金が折り合わないなどの問題があったところ、その後合意が得られただけでなく、バードソンなどがきっかけになって、借上げ地が拡大し、国の鳥獣保護区にも指定され、結果的にツルの越冬地は確保されました。

●新しい課題と募金の活用

長年の保護対策が実り、出水地方で越冬するナベヅルやマナヅルは 10,000 羽を超えるようになりましたが、その反面、新たな課題が出てきました。

出水に多くのツルが集中しているために、伝染病などが発生した場合、一度に多くの個体が被害を受けてしまう危険性がかねてから指摘されていましたが、最近それを実証するような事件が相次いで起こりました。

1999 年 11 月、韓国浅水湾で 10,000 羽以上のトモエガモが鳥コレラで死亡し、2002 年 12 月、台南で 73 羽のクロツラヘラサギがボツリヌス菌による中毒で死亡しました。

ツル保護の次の段階として、出水から他の



地域への分散が重要であると考えられるようになりました。

北東アジア地域ツル類重要生息地ネットワークでも、越冬地分散を中心的な課題として進めています。環境省、農水

省、文化庁共同でツル分散化の調査も行われました。

佐賀県、高知県、長崎県などでツル越冬地受け入れの動きも起こっており、越冬地分散化事業のために、バードソン 93 の募金を活用することが最も有意義であると考えられ、その方針が、本年 5 月の理事会と 6 月の評議員会で承認されました。

●お願いとお詫び

支部役員会としても、バードソン 93 に協力して広く募金をお願いしながら、当初の目的であった農地買取りが果たせなかったことをお詫び申し上げるとともに、出水に飛来するツルの保護に役立つ今回の使途変更へ、ご理解をお願いする次第です。

●返還ご希望の場合は

広い意味ではツル保護という目的の範囲内ですが、農地買取りという募金目的とは違う用途に使いたいというわけですから、それに賛同いただけない場合は、当然募金をお返ししなければなりません。お手数まことに恐れ入りますが、お名前、募金当時のご住所、現在のご住所、ご記憶の募金額、支援チームなどを下記連絡先にご連絡ください。保管してある募金申込書と照合し、予算執行の都合で来年度になりますが、返金させていただきます。よろしく願います。

連絡先: 自然保護室 植田睦之 TEL 042-593-6872 FAX 042-593-6873 e-mail mj-ueta@netlaputa.ne.jp

庄和町倉常 ◇9月7日、休耕田でアカアシシギ6羽、エリマキシギ1羽、アオアシシギ、タカブシギ、トウネン、ムナグロ。この場所は、春日部市周辺では、秋にシギチが割合よく見られる場所です。アカアシシギは、脚が赤いので最初はツルシギかと思いましたが、飛んだ時に次列風切がはっきり白く、アカアシシギと判明しました（小沢典夫）。

越谷市七左町8丁目 ◇9月22日午前6時45分、チョウゲンボウ1羽。昨夜、台風15号通過で北風が強かったが、稲刈りの進んだ田んぼを低空で東から西へ農家の屋根をかすめ飛んで行く。すぐ近くの田んぼでシラコバト1羽、餌をついばんでいる。姿は観察できないが、鳴く声でシラコバト2羽確認した（小菅靖）。

川本町荒川明戸堰上流 ◇9月7日午後4時頃、白鳥飛来地でアカエリヒレアシシギ29羽、背中に茶色味がある個体は幼鳥か、夏羽の名残りか（新井巖）。

川島町平沼 ◇9月13日午前8時10分頃、JA付近の休耕田でケリ3羽（鈴木敬）。

寄居町赤浜 ◇9月27日午前、キジ♂2羽♀1羽が農道を次々と横切った。♂は2羽とも若く、顔の赤い部分が目立つ程度だった（鈴木敬）。

岩槻文化公園 ◇9月1日、2ヶ所で計10十のコムドリ、樹間で採餌。◇9月3日、カッコウ科の鳥（おそらくツツドリ）1羽。センダイムシクイ1羽。◇9月8日、ツツドリ1羽。胸から腹の横じまははっきり確認。◇9月18日、朝7時から9時にかけて、サシバ1羽が林内を移動するのを発見。やがて樹冠近くにとまり、カマキリを食べていた。さらに別のサシバが、林の南側でムクドリを飛び散らし、カラスに追われ東に向かう。さらに樹冠あたりを見回すサシバ1羽。その他センダイムシクイ1羽。モズ1羽のなわばり飛翔。◇9月22日、エゾビタキ2羽。1羽はトンボを食べており、もう1羽はフライングキャッチでトンボを捕えた。キビタキ♀タイプ計3羽、シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群といっしょ。コサメビタキ1羽が自分の体長の半分以上もあるトンボを必死で飲みこんでいた。◇9月26日、サシバ1羽、林内にて。カケス1羽がフワフワ飛ぶ。◇9月27日、カケス2～3羽。元荒川にコガモ2羽（鈴木紀雄）。

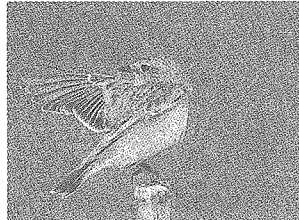
川越市南古谷 ◇9月4日、休耕田の水田にアオアシシギ2羽（鈴木紀雄）。

— ごめんなさいコーナー —

10月号『野鳥情報』中、7ページの「川越市寺井 全共運川越事務所裏の水田」とあるのは、「共済連川越事務所裏の水田」の誤りでした。お詫びして訂正します。

表紙の写真

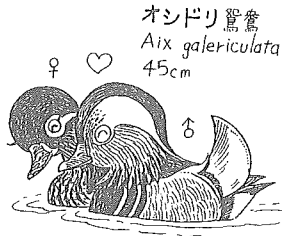
ノビタキ（スズメ目ツグミ科ノビタキ属）



右オーライ、左オーライ、両方セーフ。

背もたれと肘掛のある折りたたみ椅子を、さいたま市大久保農耕地の一角に据え、文庫本を読んでいた。毎年秋立ち寄るノビタキ。今年はこの竹が気に入ったらしく。何度も飛んできては、様々なポーズを見せてくれた。蟹瀬武男（さいたま市）

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：11月2日（日）～11月3日（月・祝）
定員に達したので締め切りました。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（月・祝）
集合：午前7時50分、丸山公園北口駐車場。
交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き（畔吉経由）7：28発にて「畔吉」下車、徒歩約8分。
担当：大坂、立岩、阿久沢（廣）、阿久沢（キ）、永野（安）、永野（京）、山野
見どころ：早朝の探鳥会です。冬鳥たちは早起きして、待っていることでしょう。前は見られなかったカワセミ、今回はきっと見ることができると思います。また思わぬ珍鳥にも出会うかもしれません。ご期待ください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：11月3日（月・祝）
集合：午前8時50分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスで現地へ。または午前9時30分水郷公園駐車場。
交通：東武伊勢崎線春日部8：13→久喜8：27→羽生8：46着。またはJR宇都宮線大宮7：39→久喜7：59にて、東武伊勢崎線乗り換え。
担当：中里、和田、田村、宮下、四分一
見どころ：公園は訪れる人もまばらになり静かになりました。梢を渡る風が冬の近

いことを告げているようです。冬の鳥たちも勢ぞろいして、皆さんの訪れを待っています。再会が楽しみです。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月9日（日）
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。
担当：後藤、和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、藤田、栗原、大澤、飛田
見どころ：冬鳥たちの季節になりました。温暖な日本、ここ大麻生にはどんな鳥が、どのくらいの羽数が飛来するかな。皆で探しましょう。定番のコハクチョウ、カモ類、ツグミ、ジョウビタキ、……などなど。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：11月15日（土）午後1時～2時ころ
集合：支部事務局108号室
案内：今年の秋は厳しい残暑が続いたけれど、山の便りで見る限り秋は足早に過ぎて冬の訪れが早くなるような気がします。天候が不順な年なのでしょうね。でも体調を崩すことのないよう心がけて、いつものボランティア、いつものようによろしくお願いします。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、小菅、赤堀、新部

見どころ：三室の探鳥会も順調に行くと、今月で222回目となる。まるでカルガモの親子が泳いでいるようですね。このモットーは、仲良く楽しく鳥を見る事。いつまでも皆さんと続けたいものです。冬鳥も勢ぞろいしています。ぜひお出かけください。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月16日（日）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：高草木、佐久間、志村、神場、中村（治）、中村（祐）、荒木、山田（義）、藤澤、杉原、池内、原

見どころ：続々と川面にカモたちが降りるように、今年こそは田んぼにタゲリが舞いおることを願って、ご参加ください。タシギ、ジョウビタキ、ツグミなどの冬鳥も待っています。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：11月20日（木）

集合：午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時ころを予定。

費用：5,000円の予定（バス代、高速料、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。

定員：25名（先着順、県支部会員優先、最少催行人員20名）。

申し込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を明記して、榎本秀和

まで。

担当：榎本、入山、藤澤

見どころ：初冬の奥日光を湯の湖畔から湯滝

周辺、中禅寺湖、千手ヶ浜周辺を歩くコースで、今までとは一味違う探鳥会です。しっかりした足拵えと、雨具・防寒対策もお忘れなく。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、または所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田（義）

見どころ：日増しに寒さも加わり、冬鳥のシーズンが到来です。今年はどうな鳥たちに会えるか楽しみです。シメやツグミ、ジョウビタキなどを探しましょう。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、森（力）、吉岡（洋）、日根、松村、百瀬、渡辺（嘉）、赤堀

見どころ：コースの一角に公共施設が建設中で大きなクレーンが動いています。でも、見沼田んぼは自然がいっぱい。池、川、田んぼ、雑木林に冬鳥たちを探して歩きます。



ダイシャクシギ（松村禎夫）

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口
集合後、十王バス新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。現地集合可。工事中のため、駐車は今までの場所にはできません。

担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、小池（一）、小池（順）、新井（巖）、羽入田

見どころ：カモたちが勢ぞろいしています。
空は高く晴れ上がり、ワシカ類の出現も楽しめる季節です。利根の川面を渡る風も冷たくなってきています。防寒対策はしっかりとしてお出かけください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月24日（月・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅
西口朝日バス1番バス停前。または午前9時15分、アスレチック公園駐車場。

担当：吉安、橋口、新井（良）、松永、宮下、吉岡（明）、田村、廣川、野村

見どころ：春日部の外れ、この内牧の里も晩秋を迎えて冬鳥たちがいつものようにやってきました。公園内をゆっくりと歩き、ジョウビタキ、ツグミ、シメなどを観察しましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月30日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前

担当：玉井、田中、中村（榮）、吉安、榎本（健）、長嶋、長野、松永

見どころ：木々が葉を落とし始めて鳥の姿がよく見える季節になります。黒浜沼上沼、その周辺のアシ原と屋敷林などで鳥を探します。季節の到来を待っていた里の冬鳥たちが勢ぞろいしているでしょう。鳥と晩秋の農村風景を楽しみましょう。

シラコバトの？から

山部直喜（三郷市）

学校の「総合的な学習の時間」のお手伝いをしていると、シラコバトについて質問をよく受けます。その時、スパッと回答できない事が多く、その反省から下記のものを用意しました。会員の方にもきっと、参考になるとと思います。

Q 1 何日ぐらいで卵から雛にかえりますか。

A 1 14日～16日ぐらいです。

Q 2 飛べるようになるには何日ぐらいかかりますか。

A 2 14日～21日ぐらいです。

Q 3 卵を温めるのはオスですか、メスですか。

A 3 交替で行ないます。昼間はオスが、夜はメスが多いようです。

Q 4 何を食べていますか。

A 4 雑草の種子、特にイネ科の植物が多いようです。

Q 5 ヒナに餌を運ぶのはオスですか、メスですか。

A 5 ハトは採った餌をそのままヒナにあたえるものではありません。親鳥（オス、メスとも）が自分で食べて体の中で溶かしたものを口から出して与えます。それをピジョンミルクといいます。

Q 6 オスとメスは仲が良いのですか。

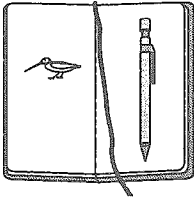
A 6 相手が死なない限り、一生同じ夫婦だそうです。

Q 7 なぜ、越谷付近にしかいないのですか。

A 7 今は越谷は少なくなっています。そして北は群馬県南部、南は東京都との境付近、東は江戸川付近、西は荒川付近までドーナツの形のように広がっているそうです。

Q 8 シラコバトはどこからきたの？

A 8 （移入説と自然分布説を紹介して、「学者ではないのでなんとも言えません」と逃げています）



行事報告

6月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 45人 天気: 曇後雨

カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジ
キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨ
ドリ モズ セッカ ホオジロ カワラヒワ ス
ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (18種) 差間コースは工事中でとても歩ける状
態ではなく、コースを変更。スタートして30分程
で雨が降り出し、参加者の方々には申し訳なく切
り上げ。雨には勝てず残念。(手塚正義)

6月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 41人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ コジュケイ イカルチド
リ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバ
メ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッ
カ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズ
メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(29種) 朝から気温がぐんぐんと上がる。汗をぬ
ぐいながらのスタートとなった。土手に上がると
モズの物まね鳴き。間近に観察できた。河原に出
るとコガモがいた。病気や怪我で帰れなくなっ
ているのでなければいいのだが。こんな暑さの中、
オオヨシキリだけは元気に鳴いていた。日差しが
強くなってきたので皆の体調を考えて早目に終わ
った。カッコウが出なかったのが残念だった。

(中里裕一)

6月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 59人 天気: 曇一時雨

カワウ ゴイサギ カルガモ キジ コチドリ
キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ
セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガ
ラス ハシボソガラス (24種) 梅雨どきの探鳥会

はリーダー泣かせである。コースも雨を想定して
決定する。今回はカルガモやバンの子育てを期待
したが、葦の陰に隠れて出現しない。代わりにカ
ッコウが姿も声も。キジも梅雨空を吹き飛ばすよ
うに鳴いてくれた。ゆっくり、ゆっくり探鳥会を
した鳥見人は、相変わらず三室を楽しむ人たちだ
った。(楠見邦博)

6月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 17人

新井浩、荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原
教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、北村隆、佐久間博
文、島田貴子、原田譲、藤掛保司、藤野富代、増
尾隆、松村禎夫、水谷真人、百瀬修

6月22日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 56人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル
ガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ キジ
コチドリ イカルチドリ キジバト カワセミ
コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (29種) 夏至で梅雨の中休み。スター
トはカイツブリの親子をじっくりと観察。イカル
チドリ、コチドリのヒナは確認できなかったが、
途中カルガモの親子、そして城山橋の水門付近で
は、カワセミの若が盛んにダイビングするのを見
た。なかなか餌をゲットできなかったが、やっと
小さい魚を食べていると誰かが喜んでいて。最終
地点の鳥合わせ場所が水路となり場所がなく、暑
いので水門付近の木陰とした。(藤掛保司)

7月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 15人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ ホシハジロ トビ オオタカ イ

カルチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ
 イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
 ヨドリ モズ ウグイス セッカ ホオジロ カ
 ワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (28種) 鉛色の雲の下、
 当地生まれの若鳥ツバメ、カワラヒワ、モズが可
 愛い姿を現す。水辺にはカルガモのファミリー、
 越夏中のホシハジロ (今朝はマガモもいたが)。な
 ぜか夏冬折衷の大麻生は愉快だ。 (島田恵司)

(楠見邦博)

7月13日 (日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 36人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ マガモ カルガ
 モ オオタカ コジュケイ バン キジバト コ
 ゲラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ
 イカル スズメ オナガ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス (23種) 今にも雨が降りそうで、少し
 肌寒いくらいだ。まず、入り口の池でカイツブリ
 とその巣、カルガモ、ホオジロ。途中でオオタカ
 の声を聞きながら、オオムラサキの所へと。が、
 寒いせいかいない。中央レストラン付近でようや
 く見つける。山田大沼でマガモ、バン、カワウを
 見て終わり。 (佐久間博文)

7月19日 (土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

新井浩、荒木恒夫、伊藤泰一郎、海老原教子、大
 坂幸男、岡崎公彦、岡崎孝彦、尾崎甲四郎、江浪
 功、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、百瀬修

7月20日 (日) さいたま市 三室地区

参加: 75人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ カルガモ キジ
 コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ
 ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハ
 シボソガラス (23種) 夏休みに入って初めての日
 曜日で、子供達の参加が多く明るい探鳥会であっ
 た。鳥数が少ないので、心配したら、鳥の神様は
 いつもお助けマンを派遣してくれた。最後の北宿
 大橋で、カルガモの親子連れとカワセミ、ゴイサ
 ギの成鳥が見られて、全員感激した。藤掛新支部
 長も参加されて、参加者に親しく挨拶された。

7月27日 (日) 狭山市 入間川

参加: 44人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイ
 サギ コサギ カルガモ トビ キジ イカルチ
 ドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ
 ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキ
 レイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ
 シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ
 シブトガラス (31種) 夏らしい日がほとんどない
 まま7月が終わろうとしている。この日も曇で、
 7月下旬としてはかなり過ごしやすく、落ち着い
 て鳥が見られた。猛暑は困るが「普通に暑い夏」
 に来てほしい。 (長谷部謙二)

8月10日 (日) 熊谷市 大麻生

参加: 19人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサ
 ギ アオサギ カルガモ ハククマ トビ オオ
 タカ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ セ
 グロカモメ ヒヨドリ セッカ ホオジロ スズ
 メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
 (22種) 台風一過。朝から気温がぐんぐん上がる。
 スタートするころにはかなり厳しい暑さになった。
 それでも土手の上は僅かでも風があったのでしの
 げた。荒川は台風10号のため濁流。増水していて
 鳥が寄り付かない。比較的水のきれいなところ
 には、サギ類が集まっていた。初参加の方は、カ
 ワセミが見られたので、満足気だった。皆の体調を
 考えて、短いコース、短時間に切り上げた。

(中里裕一)



カルガモ (編集部)

連絡帳

●カラスのねぐら情報のお願い

埼玉県環境防災部みどり自然課からのお願いです。県では、県内各地から寄せられているカラスによる被害に対する対策を検討していますが、その基礎データとするために、どこにどの程度の規模のカラスのねぐらがあるかの情報を求めています。

10月1日(水)に支部事務局に来局した同課野生生物担当者2名(内1名は当支部の会員)の説明では、駆除を進めるためのデータを集めているのではなく、ゴミの出し方も含めて幅広い検討を進める上での、基礎資料にしたいとのこと。例えば、カラス被害の出ない有効で安価なゴミ出し方法を考える上でも、近隣地域でのカラスの数などは、検討材料のひとつとして必要になってくるというわけです。

- 1, 川口市グリーンセンター
- 2, さいたま市氷川神社
- 3, 新座市平林寺
- 4, 越谷市久伊豆神社

の4ヶ所のねぐらはすでに知られています。それ以外の場所で、100羽以上と思われるハシボトガラスまたはハシボソガラスのねぐらがある場合は、

- 1, カラスの種類
- 2, 見た感じで1000羽以上か1000羽以下か
- 3, その場所の住所と通称名
- 4, 報告者の住所・氏名・連絡先などを、

郵便:330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
埼玉県環境防災部みどり自然課野生生物担当
電話:048-830-3154 FAX:048-830-4775
e-mail:a3140@pref.saitama.jp

のいずれかで、第1次本年12月末までに、第2次来年2月末までに情報をお寄せください。

12月末までに寄せられた情報の内いくつかについては現地調査を実施し、情報については、当支部にも還元される約束になっています。

なお、最近数百羽単位での飛来が見られるようになったミヤマガラスは、今回の調査の対象にはなっていません。

●11月の事務局 土曜と日曜の予定

- 1日(土)12月号編集作業。普及部会議。
- 8日(土)12月号校正。
- 15日(土)袋づめの会。研究部会議。
- 16日(日)役員会。

●会員数は

10月1日現在2,502人です。

活動報告

9月5日(金)本部の執行部・事務局体制の大幅変更に関して、臨時の業務監査実施(海老原)。

9月13日(土)10月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司、山田義郎)。

9月21日(日)役員会(司会:石光章、各部の報告・関東ブロック協議会の報告・バードソン93募金使途変更について・その他)。

9月22日(月)支部報だけの会員に向けて、10月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

先月号5ページ「早起きはオオタカの得」の3日後、8月29日朝5時15分。今度のはす向かい14階屋上のアンテナで確認。おそらく同じ個体。8時25分南東に飛び立つ。さらに2日後の31日朝8時35分、29日と同じアンテナ上に今度は明らかに別の個体。茶色っぽく、眉斑が細く、下面の縞が縦。若鳥だ。目黒のサンマ、我が家のオオタカ。(山部)

しらこぼと 2003年11月号(第235号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社